

すてきな大分を見つけ、伝えよう！

2023. 12. 1

一般社団法人すてきな大分を伝える会

11月度『太陽の家』現地見学、講話会のご報告

皆さんこんにちは！ 11月は、先進的な福祉事業への取り組みをされる『太陽の家』を現地見学し、山下達夫現理事長（5代目64歳）のお話をうかがいました。

【太陽の家】

太陽の家は、1965年10月に中村裕博士が創設し、今年で58年目を迎えました。“障がい者に保護より、雇用の機会を”を理念に置き、創設時14名（内障がい者7人）程でスタートしたのですが、現在では、1340人を雇用し、施設利用者480人を含めると、1820名もの方々が、太陽の家にお世話になっています。実に100倍もの規模に拡大され、見事な福祉事業を進めています。

創業者中村裕の夢は、障がいを持った人が、自分の持てる機能を最大限生かし、仕事を行い、報酬としての賃金を頂き、税金も納め、一社会人として復帰した喜びを掴んでもらいたい、というものでありました。そのための身体と精神のリハビリを研究し、職能領域拡大と効率化のため、治工具や補助具の開発にも力を入れました。山下理事長は、この中村裕の抱いていた夢を信じ、共感し、太陽の家と共に歩んでこられた方でした。

【山下達夫理事長のお話】



1歳2ヵ月でポリオを患い、四肢不自由の身になりました。18歳の時、太陽の家に訓練生として入所し、しばらくしてプログラマーとなり、初めてこの時、納税者になりました。その後三菱商事太陽(株)の創設で、社員に登用され、プログラマーの仕事に取り組むのですが、身体的なハンディで、苦しみました。この時に総務部への配置転換が幸いし、その後は部長、取締役、社長へととんとん拍子で昇進しました。そして、4年後の59歳の時に太陽の家の理事長に就任したのです。四肢不自由ですが、唯一一つ誰にも負けないものがあります。私の顔です。（拍手）



① 太陽の家に入所したころの夢・・・それは家族をもつことでした。『父母が築いてくれたような家庭を築きたい』という強い思いを秘めていました。今では妻と2人の娘、5人の孫の幸せな家族が築かれています。困難な壁もありましたが、それを乗り越えたのは、やはり“愛”というものがあったからでした。（拍手）

② 一生の恩人中村裕先生（写真左端は山下社員、右端が中村社長）太陽の家がなければ、私の一生は、山口県の田舎で埋もれていたでしょう。三菱商事太陽(株)設立式の直後、中村先生は、私（山下）の方に近づき、「この会社の未来は、君たちにかかっている。山下、頼むぞ！」と語られました。中村先生は、その八か月後に57歳の若さで他界されたのでした。

（下写真：山下理事長語り本『四肢麻痺 だからなに』より） （青井勝久記）

